

地域・企業・住民が関わり、できること 成田初の現代アートプロジェクトが新たな産業へ

本誌連載特集中の成田空港圏初の現代アート拠点「ふわりの森」。スタートから4年目を迎え、今この地域で何が起きていくのか。空港圏の現代アート拠点の完成からプロジェクトと企業、地域住民が参加できること、前号に続き、新たなアートがNARITAに生まれる「Artist's LIVE CITY」シムラユウスケ×中村政人対談「アーティストがつくる都市未来」後編をお届け！

成田空港圏にアーティストが集結したその日、前号ではシムラユウスケ氏がNARITAで「ふわりの森」をスタートし、アーティスト・イン・レジデンスを中核にギャラリー、カフェ、滞在先のホテルを開いてきた経緯、中村政人氏の長年の活動からアート千代田3331までの経緯、社会や都市でのアートの役割や蓄積される文化について触れてきました。今号では引き続きシムラユウスケと中村政人のスペシャルトークの模様を、イベント当日に参加していた多くの人達の声を交えてご紹介！

続編・アーティストが町に居ること

【中村政人】今日この場所や、この町に来て感じたことは、やはりシムラくんは目立っているよね。当然だけど今までなかったようなエリアをつくる人が現れて、何もなかった駅にアートでラッピングをして発信したり。この場所も今まではなかったもんね。

【参加者①】初めてシムラさんと出会った時は、ちよつと浮いている存在という印象だったんですけど、シムラさんと栄町がコラボしてJR安食駅前のエレベーターをアートラッピングした時に、子どもたちと走り回って話をしたり、おじいちゃんたちと話をしている姿を見てシムラさんは人と関わることで魅力を生み出していく人なんだと感じました。その反面、町づくりや社会に対しては、アートの

視点から鋭く切り込んで大きな動きで巻きこんでいく。僕はその両面に魅力を感じていて、この町にアーティストがいるんだなって存在をきちんと感じました。応援したいと思います。

【中】アーティストが町に居ると違和感が生まれていくよね。僕も活動のなかで20年間閉まっていた商店街のシャッターを開けたときは、やはり町では浮いていて、周りの人や一軒一軒に話をしていくんだけど、はじめは「何を勝手に」とか「話を聞いてない」とかネガティブな意見があるんだけど、いざ開けて2年3年して形になっていくと「応援してる」という言葉に変わっていく。こういうプロセスのなかで見えてくるアーティストの姿が大切になるんだよね。最初の違和感が文化に変わるのは地域の文化形成にも貴重なことです。

【プロセス（過程）を見つめていく】つくり続ける、開いていく。この過程を繰り返していくことで応援する人が増えていく。形になっていく中でプロセスが見えてきます。今日もアーティストがこの場所をつくり、今日これだけの人が来ていて、子どもたちも来て遊んでいる。抜群に良いですよ。色々な繰り返しがあるんだなと感じます。徐々に応援団が増えていくってことが見えてくるよね。

【シムラユウスケ】僕もこの地域でいる。皆さんもネットで見たとしても分かるじゃないですか。その中でアーティスト活動とは別でスタートしたプロジェクトをどう継続していくのかですね。

プロジェクトが継続する設計

【シ】この場所（下総松崎）では自身がスペースを持つことから自己資金ではじまり、プロジェクトは企業からの協賛と半分半分です。スタートしました。その中の資金でアーティストが滞在制作し作品を創っていく。それを支えてくれるスタッフがたくさん増えていき、地域の人達も支えてくれたことと今があります。そして3年目のスタート時に企業からの協賛を無しにし、自立したプロジェクトに成るべくアートカフェのTOAST AND HONEYもオープンしました。4年目を迎えた今「ここから新しい価値をつくる」「いまの過程を産業に変える」「文化が出来上がり東京から帰郷しても都心に負けない働ける場を開く」とんなことが出来るチームにしたいと考えてます。

プロジェクトに企業がオファーで関わる。

【ふわりの森PRスタッフ】地域の様々な企業さんからもプロジェクトや彼とコラボをしたい、応援したいというような積極的な声が増えてきました。これからは僕がその間を繋いでいけるような動きをしたいと思っています。

次ページへ続く



中村政人
Masato Nakamura

シムラユウスケ
Yusuke Shimura

スペシャルトーク シムラユウスケ × 中村政人

4 FAIR
years start

PROFILE
中村政人 Masato Nakamura
アーティスト
アーツ千代田3331 統括ディレクター

1963年生まれ、秋田県大館市出身。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくり出す社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成22年度芸術選奨受賞。1997年よりアーティストインシアティブ「コマンドN」を主宰。全国で地域再生型アートプロジェクトを多数展開し、2010年民設民営の文化施設「アーツ千代田3331」を創設。

PROFILE
シムラユウスケ
アーティスト／ふわりの森プロジェクトディレクター
空港都市国際芸術祭 ふわりの森 ARTPARADE 総合ディレクター

1981年生まれ、アーティスト。東京、ニューヨークを拠点に写真、ドローイングの制作をはじめアジア、北欧、中東で作品を多数発表。アップルストアによる特集、吉田カバンとメディアコラボなど様々な注目を集める。2014年には海外に加え幼少期から育った国内（成田市・栄町）に拠点をもち、成田国際空港を中心に広がる大自然をフィールドに空港圏初の現代アートの拠点「ふわりの森アートプロジェクト」をスタート。2020年空港都市国際芸術祭「ふわりの森ARTPARADE」の総合ディレクターを務める。

